

環境保護への取り組み 環境保護活動の沿革

日東電工では、1960年代から有機溶剤による大気汚染の防止を中心とした環境保護活動を推進してきました。1996年には環境マネジメントの根幹となる「環境基本方針」を制定。環境保護への対応を経営の重要課題と位置づけて、独自の環境会計制度の導入をはじめとする環境予算の編成や廃棄物削減など、本格的な環境保護活動に取り組み、資源の有効利用によるトータルローコストの実現を目指しています。

自社の高分子分離膜を利用した
溶剤・純水の回収・再利用



■溶剤回収ROユニット

1960

- 溶剤回収装置の設置
- 低硫黄重油の採用

有機溶剤ガスの
回収・再利用



■再利用(精留)装置

1970

有機溶剤ガスの燃焼処理



■脱臭炉(廃熱ボイラー付き)

- 無溶剤型粘着テープの生産開始



■溶剤回収装置

産業廃棄物のRDF化
(RDF: Refuse Derived Fuel
= ごみ固形燃料)



■RDFボイラー



■RDF

1980

- 回収溶剤の再利用(精留)装置の設置
- 脱臭炉(有機溶剤ガスの燃焼処理装置)の設置
- 産業廃棄物の燃料化

希薄有機溶剤ガスの濃縮・脱臭処理



■濃縮・脱臭処理装置

1990

- 1992
 - 環境委員会の設置
 - 全社包装委員会の設置
 - 日東ユーテック(株)の設立(リサイクル事業の展開)

- 1993
 - 全社環境統括部門の設置
 - ボランタリープランの策定

- 1994
 - 特定フロン全廃

- 1995
 - 化学物質管理規程の制定
 - 原材料・製品・中間品化学品安全性事前審査規程の制定

- 1996
 - 環境基本方針の制定
 - クリーンエネルギー(LPG)の採用

- 1997
 - ISO14001認証取得
(1998年度、国内全製造事業所で取得完了)

- 1998
 - トリクロロエチレンの全廃
 - 粘着テープ研究所の設立
 - ヒートサイクル式排ガス処理システムの設置
 - 生ゴミの堆肥化

- 1999
 - コージェネレーション(熱電併給)システムの設置
 - PRTRシステムの運用
 - テトラクロロエチレンの全廃
 - 環境報告書の発行



■豊橋事業所内にある粘着テープ研究所

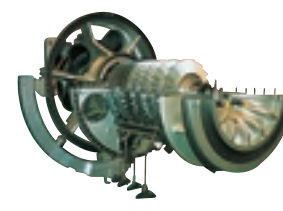


■ヒートサイクル式排ガス処理システム



■バイオ式生ゴミ処理装置

発電廃熱を有効利用した
コージェネレーション
(熱電併給)システム



■システムの心臓部となる高効率タービン

2000

- 2000
 - 環境予算・環境会計の導入
 - 環境予算編成方針の策定
 - 豊橋事業所がゴミゼロを達成*

* 2001年3月の単月で達成したもので、2001年度からは通年で達成する予定です。なお当社では、産業廃棄物の再資源化率98%以上を「ゴミゼロ」達成の基準としています。



■グループ会社 日東シンコー(株)が設置した脱臭炉

- 2001年度の課題
 - ゴミゼロ活動の全社的展開
 - 資源生産性向上への取り組み
 - グリーン調達の導入
 - LCA(ライフサイクルアセスメント)の導入



■グリーン調達ガイドライン